（二十日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭 第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人 遊沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

入學試驗制度の改正は大體成功

城山 東峯生

所謂試驗地獄から青少年い病氣に罹る者が少くないを救ふ第一回の改正制度に依る入學試驗は略終了した樣である。

△

今度、改正入學試驗制度は概して青少年を基礎とし無駄な試驗苦から救濟したいと云ふ希望に基いたものであつて、之が實現と共に世間では色々の批判も下され、非難も可成りあるやうに見受けられるが、私は大體に於ては好結果を得てゐると確信する

△

それで、改正制度の主旨と舊來行はれて來た入學制度との利害及び之と關連した一二の事項に就て、その大要を見ると次の如く謂へやうと思ふ。從來少年にとつて、最も大きな苦痛であつたものは上級校への入學と云ふ事であつた。此の入學と云ふ單なる一階梯を越ゆる爲めに、小學、中學共に、早四、五年にもなるとその準備に着手しなければならない樣に思はれ、親達も躍氣になつて勉强を强ひ少し餘裕のある家庭では家庭敎師を備ふとか、又學校でも入學生には特別に放課後の三四時間をその爲に割いて、先生も生徒も親も兄弟も共に心を痛めてゐたのである。即ち以上に依つて知らるゝ如く、之が爲めに學校や家庭に於ける兒童の心勞は異常なもので小供達も試驗々々と云ふ聲に刺戟せられる一方勉强を强ひられ、折角心身共に延び行時季に在り又延び行かねばならぬ年齡であり乍らあたらその天分の伸展を阻止さるゝの已むなき狀態に置かれてゐたばかりでなく、之が爲めにもつて天稟す、天才[illegible]なくとも健康を害して取返しのつかないである

△

改正入學試驗制度は、之等の點を慮り筆記試驗制度を廢して口述制度に更改したものであつて、今筆記試驗の弊害が如何に大であるかを示す爲めに書取りの例に就て考察して見やう。一體入學試驗に書取制を採用してゐるのは我國だけで外國にはその例が無い之は全くその不必要に基くもので我國に於ても早く撤廢すべき筈であつたのである。例へば國語の振假名や漢字と假名との採拾に就て見ても從來は桃太郎と云ふ漢字に振假名を付けるに、タラウとすべしとしタロウではないと敎へ込み、又喇叭とか矢鱈とか偲とか倖さいふ樣な記憶に困難な文字をわざ〱暗記さしたり試驗好個の題目として出し之に依つて能力の如何を圖つてゐたのである。然し乍ら玆に考ふべき事は小供が之等を記憶する事に依つてどれ程の知識を增し得たか、換言すればどれ程將來の學習の助けとなり、どれ程生活の便益を增加しどれだけ高尚な人格創造の糧となつたかと云ふ事である。

△

而して事實は之とは全く正反對な結果となつて表れて居るのである。今例桃太郎の郎と云ふ字の振假名がラウであつてロウではなく敎へられたのは、小學校の一年の時で二年三年と進むとラウの本字郎を敎へられ其後は學習上漢字の郎を用ひて用を達するのである斯かる場合に郎の振假名をラウとするもの又はロウとして見た處で結局は同じであつて、何の實益も無いロウでもラウでも所詮用は辨じ郎をわざ〱ラウと讀ますよりもロウと讀ました方が自然であつて、便らに因襲にとらはれて實益の無い無駄な骨折をさせる必要は無い、又ラッパの如きはに類例のない獨特の語であつて之を喇叭と書かせなくも良い、其外偲倖矢鱈等のむづかしい文字を暗記させて居るが之等も字そのものに特有の意味が存する譯では無い。即ち、弓矢の下に魚類の一種の鱈と云ふ字をくつつけてヤタラの意味を表したり、人偏に思ふと書いてシノブ學を意味せしめて居るが之等の漢字は字自體にそれが表現せんとする意味とは全く交渉がない、從つて非常に記憶しにくいし記憶しても直ぐ忘れてしまふのが常態で、これ等も假名でヤタラ、シノブ、と書かしめた方が自然である。以上の如く書取のために費す身心の犧牲と疲勞とは全く想像の外にて而も益する所極めて僅少、或ひは絶無或は有害なる結果を生むものは今度の口述試驗制度で子供達は之等の弊から救はれた譯である

明日の吉凶

舊曆二月三十日 新曆三月廿一日

▲一白 外部の不安去らず進まんとすれば失敗あり▲二黒 發展向上の大吉日なり緩みせぬやう注意▲三碧 地盤を固めて進め永久の基を開くべし▲四綠 別に理を働かすとも自然の發展あるべし▲五黃 一度び立てたる計畫は何所までも貫くべし▲六白 交際に注意せざれば爭論を生ずることあり▲七赤 空想に走らず堅實にじり〱進むが尤も吉▲八白 行きつまり居りたる計畫も追ひ〱と糸口に着くべし▲八紫 一寸不安はあれども遠からず順就に赴く

吉田眼科醫院

講談 闇に閃く男達 (44)

高田 涙川作
尾崎 雪麿畫

始めて明す胸中

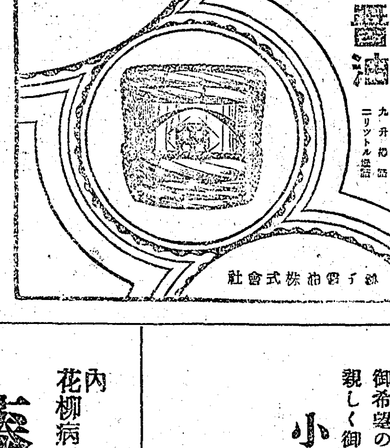
「サア若いの、見る通り相手のやつは皆逃げ去つた、これから宿屋をたづねよう
頭分の人はこういふ
「イヤ私は宿をとつてをりまする、この向ふの立花屋です」
「フム、さうか立花屋なら己もよく知つてゐる家だ、ちや皆の者も一緒に行かう
一同、立花屋の表へくる戸を固くしめられいくら叩いても明けない、先刻の騷動に驚いたものと見える
「オイ〱追風の虎松だ、こゝを開けてくんねえ」
虎松はなじみのこと故聲をかけて表戸を叩いた
「オ、これは親分衆でございますか、存せぬことゝて失禮いたしました、ヘイ只今開けます」
主人久助の聲である
「ヤア、これは大親分樣も御一緒でございますか、イヤどうも今夜はとんだ恐ろしい目に逢ふ所でございました」
主人が話す所へ、重太郎がズーッとはいつて來た
「オ、あなたはさつきの若衆さんどうぞ宿の儀はお斷り申します」
主人はこゝ〱してゐる
「ハッハ……久助心配するな仔細あつておいらはこの若い方の助太刀をし。今引き上げて來たところだ靜かな部屋へ案内してくれ、それから夜中やつかいだが一杯呑む支度をしてくんな」
奥の間におさまつた一同酒をくみ來た
「サア若いの、これからおめえさんの素性を聞かうじやねえか、全体どういふわけだ」
頭は重太郎に尋ねかけた
「ヘエ、實はかやう〱のわけから江戸靈岸島の殘月の駒吉親分をたづねた途中宿屋に迷惑をかけては氣の毒と利根川堤まで出て行つた樣なわけでございまする
「フムそれぢやおめえさんが渡邊重太郎さんか、イヤ噂は善兵衛の兄貴から聞いてゐる、しかし危い所だつたがお前さんの腕前には感心した」
「へエそりや親分は善兵衛のおやぢを御存じですか」
「知つてゐますとも、今おめえさんが言はれた殘月の駒吉はわつちのことでございますよ」
「ヘエーッ、さては殘月の親分でしたか」
「いかにも駒吉です、こういふ所で逢ふのもつきねえ縁に逢ひねね、それちやこういふことにしよう、實はわつちも相馬まで足をのばすつもりだが、明日この布川の用事をすませとも角一應江戸へけねることにしよう、道からいへば善兵衛兄貴の宅の方が近いのも知れねがそれちや折角出てきなさつたのに又歸るのも變だらうし、江戸へ歸つてとくと相談するがよかろう」
「何分よろしく願ひます」
その夜は一泊して翌日駒吉は布川の用事をすませ靈岸島の宅へ歸る、善兵衛から手紙が届くそれには當分重太郎を預つてもらいたいいづれ時機を見て屋敷へお歸しするつもりだと詳しく認めてあつた
「重太郎さん、こういふ手紙が兄貴の所から届きました、迎へにいらつしたおぢさんにあいそづかしをいつて歸してしまい、その上大膽にもたゞ一人で江戸崎へ乘り込み佐原の熊五郎の首をあげるなどどういふ考へでゐなさる、あつちも家庭の事情から旗本の家を捨て今ぢやこんなやくざ稼業なれども馬一匹、他人に言つて惡ことゝなれば決して口へはださねね、どうか詳しくいつてたくんなさい」
駒吉は重太郎を招きその意中をたづねたのである
「よう尋ねて下さつた、實はこれにはこういふわけが繼母の義理に對し異母弟秀之助に渡邊家し相續を讓りたき次第を物語つた。

大和田醫院

深キ經驗ト
正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト
優秀ナル技巧ニ依リ
多産廉賣
益々聲價漲ル
萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗證明
鐵道省 福島縣廳 栃木縣廳 青森縣廳 指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

空瓶交換の便法
ユラノスケの空瓶を
お返し下さる時は
一升瓶詰 一圓
四合同 四十錢
二合同 二十錢
御注文次第直ちに配達いたします
平町 永山酒造店小賣部
電話二〇七番

片濱自動車運轉
平、高久、豊間、江名
停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋
電話…二二七番 …一四二番（御三人以上はお迎ひに參上致します）
平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木 片濱自動車商會



特約店 平町田町 廣瀬支店 電話五四番

醸造元
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

前現村長の和解で 豊間村漸く平和
きのう目出度く手打ち 鈴木縣議の仲裁

石城郡豊間村々長志賀兼吉、同村前村長志賀安治兩氏間に先年來感る種々溝渠を生じ圓滿なる自治の遂行上とかく支障を生じ爲め識者の憂慮を招いて居たが兩氏の反目の餘波はたゞにそれのみに止まらず叔甥間に於ける

確執だけ にその關係者も自から[illegible]を招徠するので同村一部の有志は早くから兩者の和解に就て奔走斡旋今に及むだが此の程漸々同村議より數名の委員を擧げ尚ほ隣村高久村長鈴木喜太郎有志鈴木林之助兩氏立會ひ、縣會議員鈴木辰三郎氏仲裁の下に昨十九日午後二時より同村松月に於て圓滿和解するに至り先年來の事毎に險惡なる空氣が漲つてゐた同村は

漸く以前の平和な漁村に蘇へ村民は喜びをたゝへると同時に仲裁の勞を採つた鈴木縣議に謝意を表してゐる

平町地方の 米價下向
白米廿二錢安

平町地方は舊來うなぎ上りに高値を呼んで來た米價は今回に入り前旬より産米買入れ値段に於て平均二十九圓十二で十六錢、移出三等玄米三十圓三十二錢で十五錢同白米三十三圓八十二錢で二十二錢の何れも下落を見たがこれは中央市況の影響に外ならないか、また地方農家が肥料期に入つた關係から持米をどん〳〵手放してゐるのも又その一因と觀られてゐる

流石猛威揮つた 天然痘終息か
潜伏期間も過ぎて 地方民一ト安心

石城郡地方の天然痘は平窪村大田丑藏より傳染せる赤井村木田仙次郎の罹病で潜伏期間が經過したから漸く一段落となつた次第である

只今度は新患者より感染するか否かに依つて決するので平署にては各町村役場と協力して防疫線防に從事し居り去る十八日まで種痘せる者は平町の一萬六千餘百人を筆頭に磐崎村六十餘人、平窪村二千餘人、赤井、好間、内郷、湯本、小川等の各町村にて總計實に七萬餘人と云ふ數字を示して居る之が爲め大体は今後が安全らしく漸く一安心の有様であるが平署にては十八日管内巡査の非常召集を行ひ

平窪村全 村に亘り再び徹底的の戸口調査を行つた結果一人の發熱者もなくなつた由であるから今後各自が十分注意すれば別に再び此病魔に襲はれる事はあるまいと云はれて居る

長谷川氏寄附

石城郡四倉町本町長谷川好男氏は今回亡父の意志に依り四倉工學校に百圓、四倉消防組に五百圓、本町青年義團に五十圓を寄附した

鮮人袋叩き
香具師連廿名が

石城郡内郷村大字高坂磐城炭礦坑夫朝鮮人清水三郎(三二)は十八日午後十一時頃平町南町飲食店宮本方で飲食中香具師全將三犯藤大一郎(三一)外二十一名が同人につきあたり大亂鬪を始め香具師連は清水に全治一週間を要する傷害を加へ逃走せんとした處を平署員が發見香具師二十二名全部取押へ石城署に引致した

野菜は野腐れに 商店は太打撃
町も村も困り抜いた 平の天然痘後報

石城郡地方の天然痘騷ぎで一番打撃を受けたのは平町と平窪村とである、平町に出る附近町村民は此騷ぎ以來いづれも恐れをなして出て來ない有様で各商店の賣れ行きが非常に惡く殊に新田町の

花柳界の 如きは火の消えたやうな状態、此騷ぎが櫻花の頃まで續けば流石の花街の店を閉ざさなければならぬと云ふ嘆き聲が滿ちてゐる、更に平窪村は野菜の出産地で平町を始め附近の炭礦に送る野菜の大部分が此處より産出するのであるが此騷ぎ以來平窪村の野菜は危險だとて一向に賣れずいづれの農家も大弱りの有様である、大田丑藏の家は有名な

養鶏家で ある爲め毎日鶏卵が多量に産出するが此處分に窮してゐる始末で平窪村はいづれも病魔と更に此やうな損害とに襲はれ青息吐息の状態である

縣で選定の 農具を普及
郡農會の事業

石城郡農會では過般來から本縣選定の農具普及の狀態に就いて調査中であつたが此の調査に依ると本郡内農村に於いて目下使用してゐる縣選定の農具は人力用脱穀機の三千臺を筆頭に、人力用水田除草品二千臺、同用籾摺器二百臺等の順で電動機三十臺△石油發動機二十五臺。電力用脱穀機七臺電力用籾摺機十臺即ち電力を使用するものが僅に七十二臺を數へるのみである此の調査の結果から見て本郡地方の一般農業はまだ〳〵幼稚なもので殆んど人力にのみ頼つてゐる狀態で郡農會當局では各町村農會と共力今後縣選定農具の普及に努める筈である

大野養蠶講話

石城郡養蠶同業組合では廿一、廿二の兩日に亘り大野村小學校に於いて養蠶講話會を開く事となつた

今曉二ケ所を荒す 平町の怪盗
新田町三益と訓盲院に 同一犯人と睨む

廿日午前二時半頃平町字新田町料理店三益の裏木戸を押破つて帳場に忍込み現金數圓外數點の物品を窃取逃走した犯人のあるを家人が發見ろいて平署に屆出たが更らに同二時半頃平町字室の前訓盲院に忍入つた犯人あり家人に發見され何物も竊らず逃走したが各れも同一人の犯行であるらしいと目星を付けた平署では目下犯人を極力捜査中である

春！春
松ヶ岡に春の歡び
新川の流れも增して 春色日に深し

曇つてはゐたが、けふは非常に暖かです、この分ではもうぢきに櫻も咲くことでせう、氣温十一度二(二十一日正午小名濱測候所報)

……春…… 陽いと麗か、きのふは實に申し分のない小春日和、萬象にこゝる輝かしい春の先驅！冬は靜かに退陣を急いでゐる、街の大路もすつかり乾いた喜ぶ者は豈小供のみではない、自動車のスピードにも快い春の歡びが充ち〳〵てゐる……たゞそれだけで蘇へつたやうな清新な氣分がする、我國に住む者のみ味はふ實感

……紺…… 碧の空、しろい路美しい乙女、若飾る春の装ひ……往還の人々輕快な足どり、重い鐵鎖から放たれた小鳥のやうに、解放の歡びを奏でる、山に街に、そして人々の胸に、湧き起つてゐる、大地清く根をおろす草木はやはらかな慈陽を力一杯に吸つて、スイ〳〵と伸びて行く芝生の若緑に色づんできた姿に心止め給へ

……だ……が、春とはいへまだ底冷わのする風と決氣、ピクニックには早く草摘み尚早炬燵の火がまだ戀しい時節、桃の蕾が漸く綻べかゝつてゐる、松ヶ岡公園の春もやはりほんとうではない、瓢簞池の鯉が動き出した、眼を轉じて赤井嶽と湯の岳の春景をみる、さつと映る鮮かな陽の光り、ほんのり霞んだ山の眺め、新川の流れは一段と水量を加へて水量とみに豊かさを增してきた、流石にこゝだけは十二分に春色を賞でることができる

……今……年は高氣壓の關係で春が早く來るといはれてゐる從つて花も早く咲きさう……假りに多少の降雪があつても大したことはないといふ、春先にはよく火事を出す火を粗末にするせいである、皆さん火を可愛がることです。

竣工間近い 大越軍神銅像
四月中に除幕

元磐城中學校長植竹源太郎氏を會長とする大越中佐御顯彰會では數年前から同氏の雄魂毅魂を永遠に傳ふべく銅像建設の計畫をたて特志者の寄附募集中折あしくも帝都の震災に遭遇その後また〳〵財界の不況、動搖等に災され容易に進捗を見なかつたが會長植竹氏の奔走で寄附金も豫定以上に達し像は平町出身の巨匠赤堀新平氏の手により作成中であつたが完成した、敷地もまた過般の町會に於て縣社子鍬倉神社境内に決して居り、今明日中赤堀新平氏監督の下に既成の臺石上に建設する最後の工事をなす筈である尚ほ之が除幕式は花の四月を期して盛大に行ふ筈である

今期三時に 内郷の火事
損害は五百圓

内郷村大字高坂字御殿鍛冶職古内源喜方の假治工場から今廿日午前三時頃突如發火したのを家人が發見直ちに消火に努めた結果三時半頃同工場一棟を全燒して鎭火した、發火原因に就いては目下平署で取調中であるが多分工場のフイゴの殘火で損害五百圓

磐城高女 卒業式
明後廿二日 百五十三名

磐城高等女學校第十六回卒業式は來る二十二日午前十時より擧行の筈であるが卒業生は百五十三名で氏名左の如し

(夏井)阿部花子(内郷)荒井いく代(平町)新井千代子(平町)生田豊子(平町)伊藤綾子(平町)石川千枝子(内郷)磯野とり(湯本)飯島しづ(磐崎)今井きくの(多賀郡)宇佐美ちよ(内郷)薄きくよ(四倉)上遠すい(掻槌小路)梅崎せつ(内郷)江尻文子(平町)遠藤いち(平町)遠藤喜美(好間)遠藤ちよの(平町)遠藤やつ(平町)大柴幸子(双葉郡)大須賀芳井(赤井)大關千代(平町)大竹千代(平町)大原みの(平町)大平まさ子(平町)大和田美代子(同)織田さわ子(同)小野絢子(植田)小宅かねゐ(磐崎)織内いし(湯本)樫村敏子(神谷)片寄春子(植田)香取榮子(多賀郡)金澤みつ(多賀郡)金成ちよ(内郷村)金子幸子(赤井)川瀬幸江(湯本)上川竹(好間村)木田まつ子(好間村)木田みつ(内郷)草野幾世(下小川)草野喜與子(上小川)草野清子(内郷)草野せつ(平町)久保木いゑ(同)小泉秋子(湯本)楠喜美子(平町)久保木いゑ(多賀郡)後藤香子(赤井)木幡幸子(湯本)小林とみ(平町)小林なか(内郷)小松きみ枝(平窪)小室はよ(平町)齋藤たみ(好間)齋藤れい子(大浦)酒井きみ(磐崎)佐川あきの(平町)櫻井まさい(植田)櫻田さと(好間)佐藤きく(平町)佐藤千代(好間)佐藤ちよ(平町)佐藤房子(湯本)佐藤みき(赤井)三瓶よて(磐崎)三部りん(好間)志賀きみ(多賀)志賀こう(双葉)志賀美登子(植田)下山田ひで(内郷)白土とよ子(平町)菅原ゆき(四倉)鈴木かね(夏井)鈴木孝子(内郷)鈴木とよ(四倉)鈴木はな(平町)鈴木みさを(内郷)鈴木操(内郷)鈴木みつ(平町)鈴木むめ(内郷)錦内富美子(平町)清靜江(同)先崎みい(同)高木ふよ(四倉)高木雪子(大野)高木よし(平町)高田操(湯本)高萩きくゑ(同)高橋てる(草野)竹内靜子(平町)只野さわ(磐崎)谷崎きわ(湯本)田山鞠子(赤井)丹呉芳子(平町)千葉とし(同)堤ともゑ(同)富岡のゑ(同)永井萬龜(内郷)永久保しめ(平町)永島綾子(同)長瀬品子(同)中根貞子(湯本)生田目きよ(平町)滑川春子(草野)新妻ちう子(神谷)新妻とよ(平町)新妻みよ子(茨城)沼田たい(草野)根本つや(平町)野木とき(茨城縣)野口浦子(小名濱)野崎直子(内郷)箱崎巴(四倉)長谷川美代(内郷)菱沼貞子 菱沼蕃子(赤井村)平澤とち(赤井村)平本光子(飯野村)蛭田うめを(植田)布施貞子(好間)船生たか子(平町)星恒代(同)堀川八重子(神谷)增子じゆん(田村)松永ます(小名濱)松本政(平町)馬目すみ子(四倉)馬目とく(平町)馬目文子(平町)水竹かつ(平町)水戸はま(内郷村)綠川とし(磐崎)綠川操(平町)三森愛子(多賀郡)村上百合子(多賀郡)村山ゆき(平町)宗像ちよ(同)室井政子(植田)森きみ(平町)谷島たう(内郷)谷田部きくの(湯本)柳内喜代子(平町)矢吹かつみ(夏井)矢吹たま(内郷)矢部たけ(双葉郡)山口綾子(泉村)山崎やをよ(平町)横田いく(同)吉田する(平町)吉田富子(湯本)若松あき(平町)渡邊露子(平町)渡邊とよ(平町)渡邊みゆき (以上)

(優等生) 吉田とみ、佐藤ちよ、星つねよ、櫻井まさよ (以上)

農事講習會
小川村小學校で

石城郡農會では來る廿二日午前十時から小川村小學校に農事講習會を開催するが當日は神尾農會技師の金肥の使用法其の他に就いての講演がある筈

商況不活潑に伴れ 倉庫利用繁多
産米の共同販賣も 大浦村の昨今

平町地方の正米市況は市場の商情不活潑を移して依然活氣乏しく殊に昨今に至りては中農以上にあらざれば貯藏米なくこれ等は何れも値頃を待つて處分せんとの意氣込らしく相場の如何に拘らず賣買も纏まりたるものなく久しく一駄一十二圓五十錢搦みの保合を持續してゐるが昨年末より共同販賣を開始せる大浦農會倉庫のみは共同販賣品毎に市價に比し一駄一圓内外の中央高ねにて處分してゐるがこのほどの共同販賣も平地方の市價が前記の如く二十二圓五十錢内外なるにも拘らず三十三圓五十三錢といふ高ねにて約一車の取引も行はれ附近農村の羨望の的となつてゐる

日立との戰ひ 磐炭軍惜敗
雪辱の圍碁戰

磐炭對日立の第三回烏鷺決戰は去十一日より引續き一昨十八日の日曜を卜し午前九時から日立諏訪臺倶樂部において開催されたが磐炭側に事故缺席者あり戰況最初より磐炭に不利にしてさすがの常勝軍も今回は六點の差を以て日立のために一敗地にまみるゝの結果をみるに至り來るべき雪恥戰を意氣込むでゐるが兩軍を通じての優勝者は左の如し

△一等若松淑一△二等粟林萬一△三等岡田愛知△四等龜田修三△五等森島貞一 (以上)

紅燈街

三好家から御披露目した新妓さんは「よし子」とぞ申し侍べる、花の香含む美麗な豊貌齢は鬼ぁ番茶の十七才とある、どうぞ幾久しう……

磐新塔
＊＊＊＊＊＊

男でも女でも若い者の間に浮かされる活動熱の爲め兎角面白からぬ問題を起してゐるのは珍らしくないが茲にもその實例がある△相馬郡原の町相川傳吉二女サダ(假名一七)同町管野身一長女トメ(假名一七)の兩名は豫ねて東京に出て華やかな女優生活に入りたいものと考へてゐた折柄新聞の廣告に吊られ天晴れ女優たらんと兩人示し合せ昨十九日夜無斷家を飛出し上京の途中平驛で鈴木部長の爲め取押へられ懇々説諭の上で家人に引き渡された

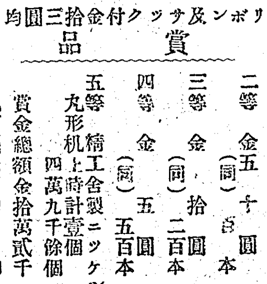
青沼醫院
平町舊城跡
電話四〇三番

ナフトール着尺
モスリン着尺
模様名仙
平 龜田屋 電五七

産科婦人科主任トシテ醫學士野秋善直新任ス
赤心堂病院
平町字田町電(話四七五)
外科、耳鼻科、泌尿科
院長 新妻由五郎
産、婦人科 主任 野秋善直
内科 主任 小林四郎
X光線科
藥局 主任 木下寅市

登録商標
醸造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話(營業部一〇番 醸造工場二七番)
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五七二三番
振替東京六八三二番

丸形セイコー腕時計普及宣傳特賣
示 時 正 確



賞品付セイコー腕時計大賣出し
期間昭和三年三月十五日より七月一日迄
一本も空籤なし
賞品 ボリンツ及サック付金拾三圓均一
一等 金壹百圓(復興債券)五十本
二等 金五十圓(同)百本
三等 金拾圓(同)二百本
四等 金五圓 五百本
五等 精工舍製ニッケル丸形机上時計壹個 四萬九千餘個
賞金總額金拾萬貳千九百圓餘賣切ぬ内御早く御買上を乞ふ
特約發賣店 平町三丁目 大谷時計病院 電話一九番

鐵筋コンクリート 土木、建築、請負業
鐵骨組立
和洋建築 合資會社
文化式建築 丸三森川組
設計監督 社長 大森鎭平
東京日本橋南茅場町二〇 電話茅場町66四五二番

生花教授
池ノ坊流生花を懇切叮寧に御教授いたします、御遊びがてら御出で下さい
平町五丁目(釜屋横町)
須藤まつの